

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500580		
法人名	株式会社サンガジャパン		
事業所名	グループホームかなれ (1階)		
所在地	愛知県名古屋市中区東区猪子石原三丁目2713番地		
自己評価作成日	令和6年3月13日	評価結果市町村受理日	令和6年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391500580-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391500580-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和6年3月29日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様それぞれの生活歴、趣味を把握していきその方らしい生活スタイルを保ちながら家族同様の心で手助け、協力しあえるように支援させて頂いております。地域行事の参加予定行事がある場合には、積極的に参加させて頂きます。ご利用者様が笑顔でいられるようにカラオケや、色々なレクリエーション活動を行っています。季節を感じてもらえるように、時期にあった料理やおやつと一緒に作ったり楽しんでもらいます。室内も清潔に保つように、清掃、消毒などを含め衛生面、安全面にも配慮しております。認知症ケアの研修を全職員に受講してもらい、職員のスキルアップを図り、認知症の理解に努めております

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設21年を迎えた2ユニットのモダンな外観の事業所は、閑静な住宅の中に溶け込んでいる。会社理念と組織として大切となる「感動介護憲章」5か条や職員が意識すべき「行動指針」10か条、「和顔愛語」を唱和して共有を図りながら、日々のケアに活かすことに心がけている。町内会に加入し、資源回収の協力や地域の商店、飲食店などの利用、地域サロンの参加など地域とのつながりを大切に、環境や状況が整えば参加する方向にある。日々の家事仕事や趣味の生け花、昔の話や遊びなど入居者が今できることを大事にし、傍に寄り添いながら支援をし、喜びや達成感を共にしている。また、天気の良い日には散歩に出掛けたり、屋上での食事や玄関先のテラスでの日向ぼっこ、四季の花の手入れや水やりなど季節感を感じ取ったり外気に触れる機会を大切にしている。入居者は、職員や周りの入居者相互に支え合いをしながら、自分の足で歩き、自分の身の回りの事を自分のペースで行ったり、気の合う人とおしゃべりを楽しんだりして、その人らしさを発揮しながら生活をしている。心地よい居間で、談笑したり昔の歌を口ずさんだりして、「ここでの生活」を職員とともに楽しんでいる。少人数でドライブに出かけ、季節の花を眺めながら四季の移ろいを感じ取れる日を心待ちにしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念【深く理解し寄り添うこと】ご利用者様と介護職の間で毎日会話を心がけて、信頼関係を築き上げている。	「感動介護憲章」5か条や職員が意識すべき「クレド10か条」を玄関に掲示している。また、事業所理念を毎年更新して、管理者は年度初めに基本方針や年度目標を職員に表明し、重点目標と方策を職員に説明している。職員は、感動介護憲章やクレド10か条を日々のケアに活かすことを意識し、毎朝の申し送り時に復唱している。また、毎月の職員会議や研修時などで内容について話し合い、日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めるように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所内でインフルエンザ感染者が多数でてしまったことにより地域行事にはあまり参加できなかった。	町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。地域の行事も再開され、資源回収の協力や地域の商店、飲食店などの利用、地域サロンの参加など地域とのつながりを大切に、入居者の体調や状態が整えばなるべく参加するようにしている。中学生の職場体験の受け入れや、地域ボランティアの受け入れも再開し入居者もバイオリン演奏などで久し振りに楽しむことができた。天気の良い日には近隣の散歩や近くの公園まで出かけ近所の方と挨拶を交わしたり、玄関先のベンチに腰掛けて日向ぼっこをするなどして地域と繋がりがながら暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、地域の方々へ貢献できるよう毎月の廃品回収の参加に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者、計画作成担当者協力の上、2か月に1度行っている。ヒヤリハット報告書、事故報告書をもとに、地域とは回覧板で情報収集している。	運営推進会議は2か月に1回、入居者家族、自治会長、民生委員、いきいき支援センターの職員の参加を得て開催している。会議では事業所の運営状況や活動内容、事故報告やヒヤリハットなどを報告し、委員からの意見や提案などはその場で話し合ったり、職員で協議してサービスや技術の向上に活かすよう努めている。議事録は委員に届け、家族には毎月の請求書に同封している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に行っていない	行政とは日頃から電話やメールなどで連絡を取り合っている。行政担当窓口には介護保険更新の手続きや申請の代行業務、市の助成金などの手続き等で訪問した折に、情報交換をしたり入所事例などで指導や助言を得るなど良好な協力関係を築いている。市主催の研修案内は休憩室に掲示して、職員は必要に応じて参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修マニュアルを職員全体が熟読し認識している。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催している。また、毎月の研修やアンケート調査を基に話し合う機会を作り、拘束に対する意識を高め、言葉や心の拘束にも配慮して、束縛感のない環境づくりに努め、職員間で認識の共有を図るようにしている。交通事情や安全のために玄関の施錠とセンサーマットの使用はあるが、家族からの同意を得ている。経験の少ない職員にもその都度注意してスピーチロックや不適切なかかわりがないように努め、職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしの確保に努めている。また、職員は本部監査室の研修を受けている。職員には「不適切ホットライン」を利用し本部に直接連絡できるシステムを整え未然に防ぐ手段としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	関係書類をもとに、職員全員と情報共有し確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関するマニュアルは事業所内で観覧できる体制ではあり、年間の研修計画にも含まれていて研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、施設長、管理者により丁寧に説明しており、質問事、困っておられる事もその場で相談を受けながら対応している。契約後の変更においても文章、口頭連絡して同意を得る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内の玄関口にはご家族様ご意見箱を設けており、来所時には意見・要望をきき常に前向きに取り組んでいる。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、申し送りノートに記録して職員間で共有しケアに繋げている。家族には電話や面会時、介護計画の見直しの機会を通して、計画作成者が中心となり入居者の日々の様子を伝えたり意見や要望等を聞いたりして運営に反映させるよう努めている。また、家族に施設の暮らしぶりの写真を送ったり、「かなれ便り」を送付し安心感を届けている。意見箱を設置して意見を述べやすい環境も整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が基本的に介護職員と面談を行い、フロア会議、全体会議を行いまとめた意見は発表している。代表者には事業所内に連絡先が掲示されている。	管理者は日常の業務の中で話しやすい関係づくりに努め、提案や要望を聞いたりして運営に反映させている。管理者は3か月に1回職員と話し合う機会を作り意見や提案、悩みなど職員の想いを聞くようにしたり、職員の良いところを伝えるなどして、職員の意欲の向上に努めている。人事考課制度により職員は自己評価シートに記入し本部に報告している。管理者は戻ってきた評価表を基に面談し業務や処遇、職場環境などに反映させている。職員は必要に応じ本社のホットラインに直接意見や要望を述べやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には各施設の管理者含め職員の向上心まで把握していないと思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修以外にも個々に応じたセミナー研修などに参加するように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームに見学研修に行く機会を設け意見交換を行い、事業所の向上に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、家族と面談して、意向や要望を聞いた上で常に利用者と同じ目線で対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を通じて、困っていることや不安に感じることを組みながら配慮し信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを聞き取りながら情報を確認し、どのような支援が必要か見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活と変化のないようにできることは見守り、出来ないところはそっと支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人様の普段の生活状況をありのまま報告しイベント時の写真なども定期的にお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の方は、家族により馴染みの場所へ出向けているが、まだまだ十分に支援できていない。	アセスメントシートから生活歴や馴染みの人や場所を把握し、今までの生活が再現できる支援を目指している。家族の協力を得ながら外出やドライブをしたり、自宅に帰って家族と過ごしたりして人や場所の関係が途切れないよう家族に応援して頂いている。事業所では近所の散歩やプランターでゴーヤや季節の花を育てるなど今までしてきた暮らしを再現できるよう努めている。施設内では昔の話やゲーム、童謡など昔を思い出せるレクリエーションや新聞やチラシを見る習慣や日常の家事仕事、趣味の麻雀などを活かした支援に努めている。	家族の協力が難しい入居者の方には、入居者の馴染みの継続や再発見をするために、その方の望まれる人や場所、物などの支援のありかたや、趣味や特技などが生活の中で継続できるように再度アセスメントを行うなどして、活かされた継続支援が提供されることを願いたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てるように座る席を工夫したりレクリエーションで一緒に楽しんで共通の時間を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様ご要望であれば出来る範囲で相談しながら受け入れ対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様自身がどのような思いで生活しているか表情や言動を見逃さないで寄り添い支援していく。	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないように心がけたり、日常のさりげない会話や表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを申し送りノートや介護記録に記録して職員間で共有しケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を参考にしたり家族様に情報共有したりと努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の出来る事を把握して有する力を発揮していただけるように努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様本人の思いや、利用者家族の思いを聞き入れ提案し情報共有により介護計画に反映させている。モニタリングでも意見交換をしている。	毎月の全体会議でケアプランの短期目標を評価し、同時に計画作成者は職員の意見も聞きながらモニタリングを行っている。情報は職員間で共有しながら実践に取り組んでいる。短期目標に合わせて6か月ごとに計画作成担当者が介護計画の見直しを行っている。同時に本人や家族の意向や要望をふまえ、医師や訪問看護師など関係者の意見も反映させながら、現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様それぞれのケアプランを情報共有しあ実践出来ること出来ないことを記録に残し申し送りにて情報共有し見直しに努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様のニーズにお応えするように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響や、インフルエンザの感染者が多数出たため、支援を十分に出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による月2回の往診、入所前からのかかりつけ医の方々とは通院を支援している。	家族の希望を優先にかかりつけ医か提携医かの希望を聞き、内科医は2か所の提携医から選んで決めている。内科の往診は月2回、歯科は月2回の往診と毎週の口腔ケアが受けられる。何かあれば内科医が必要に応じて専門医を紹介し、家族の協力を得て受診している。週1回訪問看護師による健康管理を行っている。身体状況に変化があった場合や緊急時は24時間体制で提携医や訪問看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかに適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、週に1度の訪問看護と契約し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合は、病院の相談員、家族様と連絡を取り合い退院時の要望、家族様の希望される事を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様から週末期にあたり相談あれば事業所内で出来る範囲の事を説明していき、支援していく取よう取り込んでいる。	重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を再確認している。医師や訪問看護師と24時間の支援体制を整え、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。看取りを経験したことにより、職員全員が入居者の変化を見逃す事の無いよう介護予防や看取りの研修を重ねたり、施設長からの資料提供や今までの経験に基づいた話を聴き支援に繋げるようにしている。必要に応じて職員会議の中で話し合いながら日々のケアの大切さを重視して事業所全体で取り組む努力をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を行い、急変時のマニュアルを各フロアに設置し、管理者にも連絡するよう連携している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップで避難場所の確認をし、消防訓練では利用者も参加して訓練を行っている。	年2回防災マニュアルを利用し、火災や地震などの災害を想定した避難訓練を昼間や夜間帯の職員体制で実施している。避難誘導や避難経路の確認と水消火器を利用したの消火訓練を実施している。問題点は職員で話し合い改善に努めている。また、消防職員による救命講習やAED研修が実施されている。備蓄品は水や食料など職員の物資も含め3日分を本社が用意し、備品の懐中電灯やカセットコンロなどもリストにより管理している。BCP計画を作成している。今回は夜間専属の職員の参加が得られなかった。	非常時に必要とされる備蓄品をリスト化しBCP計画書の中にファイルして事務所に保管しているが、職員全員が備品のリストや保管場所がいつでも確認できるようリストを可視化し各ユニットに掲示するなどして緊急時にどの職員でも対応できるよう望みたい。また、夜勤専属の職員も非常時に備え、訓練に参加ができるよう望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の思い、意見を傾聴し日常生活の不平不満がないか人格を尊重する。	人生の先輩として、これまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、不適切な声掛けや対応などを見逃さないよう配慮したり、管理者自らモデリングを示すなどして気づきに発展できるように努め、入居者の個性や人格などを考慮した支援ができるよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で利用者の思いや意思が通じるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けにてその日の体調に合わせて支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容のできる方してもらい、支援が必要な方は一緒に選んでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味見、盛り付けや配膳、下膳、食器洗いまで出来る方は行ってもらう。	食材業者の栄養士により栄養バランスの整った献立で季節に応じた食材が届けられる。ご飯と味噌汁は事業所で調理している。おせち料理や和菓子などの提供もあり季節感を味わったり昔を懐かしむ食の提供をしている。誕生日には手作りケーキを用意してお祝いしたりドーナツやパンケーキなどのおやつ作りにも力を入れている。入居者と一緒に料理の盛り付けや準備、後片付けなど入居者の得意分野を生かした支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量の把握、体質、年齢に見合った栄養やバランスの良い形態メニューを食べて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて見守りしながら、歯磨きをしていただき、出来ない方は介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄を出来るよう、一人一人の排泄のリズムに合わせた声掛けや誘導をしている。できない方、わからない方は介助し、夜間はリハビリパンツの方、ポータブルトイレも使用されている。	個々の排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は可能な限り自力での排泄と「おむつゼロ」を目指している。夜間も尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にし、見守りと誘導を行っている。夜間のみ必要に応じてポータブルを利用し、安心して排泄できる環境を整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、水分を多めに摂って頂いたり、適度な運動を心掛けたり、服薬等で排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間、曜日は決定しているが、リラックスできるような雰囲気作りに努めている。一人一人ゆっくりと入浴をしてもらえるような会話をし、音楽を聞いたり、歌を歌ったりして工夫をしている。	入浴は週に2回を目安とし、一人ひとりの体調や状態を考慮して個浴や機械浴での入浴支援をしている。誰もが気持ちよく入浴が楽しめるよう音楽を流し気分転換に利用したり、季節を感じるゆず湯や菖蒲湯で香りを楽しんだりして工夫をしている。冬季は暖房機やシャワーを利用し、浴室内を暖めヒートショックに配慮している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したり、気分転換を図って入浴できるよう支援をしている。入浴後はローションなどを利用して肌の乾燥に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを崩さないよう個々のスタイルに合わせて日中に臥床時間を取り入れたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助では、介護職員によるダブルチェックを行い、服薬変更がある場合には必ず申し送りにて情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった嗜好品、趣味、今までの生活スタイルを保ち、喜びや感動もしていただけるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望する馴染みの場所へは、家族様協力のもと外出されている。また、天気の良い日は近所へ散歩に出かけて地域の方々とも会話をし、顔なじみの関係を築けるように努めている。	天気の良い日には少しづつ散歩に出掛けている。また、屋上での食事会や玄関先のテラスで日向ぼっこをしたり、プランターの花の手入れや水やりなど外気に触れる機会を大切にケアに心がけている。日常的に散歩や買い物に出かけられる環境にはあるが、喫茶店や外食、ショッピングセンターで買い物などの外出支援は引き続き留まっている。今後、少人数対応で分散して季節の花見に出掛ける予定にしている。	車椅子の方も含め入居者の皆が満足する外出支援を目指し、日常的に戸外に出掛けられる環境を整えることを望みたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理については支援は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、携帯電話をお預かりし、ご親族や知人等からの電話には、ご希望があれば取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者様と介護職員による季節に応じた作品を掲示している。季節の折々にはイベントを催している。リビングにおいては、ゆったりと過ごせるような配置に努め、床暖房、エアコンにて温度調整をし、快適な温度で過ごすことができるよう努めている。	居間と食堂はワンフロアで、日当たりがよく明るく風通しの良い生活空間となっている。壁面には季節に合わせたテーマで貼り絵の作品を飾り、落ち着いた大人の雰囲気の中で生活している。廊下の暖房や居間の床暖、加湿器などの設備を整え室内の温度や乾燥にも配慮し風邪や感染症の予防対策をしている。入居者はゆったりとしたソファや食堂の腰掛、広い廊下の和風ベンチなどそれぞれ思い思いの場所でくつろいだり、テレビを見たり、おしゃべりをしたりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの個性に合わせて椅子を移動したり、ソファにかけていただいたり、その時々のお気分に沿った居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、馴染みのある家具、小物、写真など家族で相談され配置されていて、落ち着き、安心できるよう配慮している。	居室入り口には、表札を掲げ自宅玄関の雰囲気になっている。部屋には洗面台が備え付けられ、毎日の歯磨きや、入浴後の顔の手入れなどができる生活環境が整えられている。また、使い慣れた整理筆筒やお気に入りの椅子、テレビなどを持ち込んだり、お花や写真、手作り作品などを飾って居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分かりやすいよう、見やすい字で表札トイレの場所も表示されている。手すりも設置しており、安全かつ自立活動が出来るよう工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391500580		
法人名	株式会社サンガジャパン		
事業所名	グループホームかなれ (2階)		
所在地	愛知県名古屋市中区東区猪子石原三丁目2713番地		
自己評価作成日	令和6年3月13日	評価結果市町村受理日	令和6年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391500580-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391500580-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和6年3月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様それぞれの生活歴、趣味を把握していきその方らしい生活スタイルを保ちながら家族同様の心で手助け、協力しあえるように支援させて頂いております。地域行事の参加予定行事がある場合には、積極的に参加させて頂きます。ご利用者様が笑顔でいられるようにカラオケや、色々なレクリエーション活動を行っています。季節を感じてもらえるように、時期にあった料理やおやつと一緒に作ったり楽しんでもらいます。室内も清潔に保つように、清掃、消毒などを含め衛生面、安全面にも配慮しております。認知症ケアの研修を全職員に受講してもらい、職員のスキルアップを図り、認知症の理解に努めております

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設21年を迎えた2ユニットのモダンな外観の事業所は、閑静な住宅の中に溶け込んでいる。会社理念と組織として大切となる「感動介護憲章」5か条や職員が意識すべき「行動指針」10か条、「和顔愛語」を唱和して共有を図りながら、日々のケアに活かすことに心がけている。町内会に加入し、資源回収の協力や地域の商店、飲食店などの利用、地域サロンの参加など地域とのつながりを大切に、環境や状況が整えば参加する方向にある。日々の家事仕事や趣味の生け花、昔の話や遊びなど入居者が今できることを大事にし、傍に寄り添いながら支援をし、喜びや達成感を共にしている。また、天気の良い日には散歩に出掛けたり、屋上での食事や玄関先のテラスでの日向ぼっこ、四季の花の手入れや水やりなど季節感を感じ取ったり外気に触れる機会を大切にしている。入居者は、職員や周りの入居者相互に支え合いをしながら、自分の足で歩き、自分の身の回りの事を自分のペースで行ったり、気の合う人とおしゃべりを楽しんだりして、その人らしさを発揮しながら生活をしている。心地よい居間で、談笑したり昔の歌を口ずさんだりして、「ここでの生活」を職員とともに楽しんでいる。少人数でドライブに出かけ、季節の花を眺めながら四季の移ろいを感じ取れる日を心待ちにしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念【深く理解し寄り添うこと】ご利用者様と介護職の間で毎日会話を心がけて、信頼関係を築き上げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所内でインフルエンザ感染者が多数でしまったことにより地域行事にはあまり参加できなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、地域の方々に貢献できるよう毎月の廃品回収の参加に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者、計画作成担当者協力の上、2か月に1度行っている。ヒヤリハット報告書、事故報告書をもとに、地域とは回覧板で情報収集している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に行っていない		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修マニュアルを職員全体が熟読し認識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関係書類をもとに、職員全員と情報共有し確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関するマニュアルは事業所内で観覧できる体制ではあり、年間の研修計画にも含まれていて研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、施設長、管理者により丁寧に説明しており、質問事、困っておられる事もその場で相談を受けながら対応している。契約後の変更においても文章、口頭連絡して同意を得る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内の玄関口にはご家族様ご意見箱を設けており、来所時には意見・要望をきき常に前向きに取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が基本的に介護職員と面談を行い、フロア会議、全体会議を行いまとめた意見は発表している。代表者には事業所内に連絡先が掲示されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には各施設の管理者含め職員の向上心まで把握していないと思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修以外にも個々に応じたセミナー研修などに参加するように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームに見学研修に行く機会を設け意見交換を行い、事業所の向上に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、家族と面談して、意向や要望を聞いた上で常に利用者と同じ目線で対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を通じて、困っていることや不安に感じることを組みながら配慮し信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを聞き取りながら情報を確認し、どのような支援が必要か見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活と変化のないようにできることは見守り、出来ないところはそっと支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人様の普段の生活状況をありのまま報告しイベント時の写真なども定期的にお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の方は、家族により馴染みの場所へ出向いているが、まだまだ十分に支援できていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てるように座る席を工夫したりレクリエーションで一緒に楽しんで共通の時間を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様ご要望であれば出来る範囲で相談しながら受け入れ対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様自身がどのような思いで生活しているか表情や言動を見逃さないで寄り添い支援していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を参考にしたり家族様に情報共有したりと努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の出来る事を把握して有する力を発揮していただけるように努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様本人の思いや、利用者家族の思いを聞き入れ提案し情報共有により介護計画に反映させている。モニタリングでも意見交換をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様それぞれのケアプランを情報共有しあい実践出来ること出来ないことを記録に残し申し送りにて情報共有し見直しに努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様のニーズにお応えするように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響や、インフルエンザの感染者が多数出たため、支援を十分に出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による月2回の往診、入所前からのかかりつけ医の方々は通院を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、週に1度の訪問看護と契約し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合は、病院の相談員、家族様と連絡を取り合い退院時の要望、家族様の希望される事を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様から週末期にあたり相談あれば事業所内で出来る範囲の事を説明していき、支援していく取よう取り込んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を行い、急変時のマニュアルを各フロアに設置し、管理者にも連絡するよう連携している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップで避難場所の確認をし、消防訓練では利用者も参加して訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の思い、意見を傾聴し日常生活の不平不満がないか人格を尊重する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で利用者の思いや意思が通じるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けにてその日の体調に合わせて支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容のできる方してもらい、支援が必要な方は一緒に選んでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味見、盛り付けや配膳、下膳、食器洗いまで出来る方は行ってもらおう。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量の把握、体質、年齢に見合った栄養やバランスの良い形態メニューを食べて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて見守りしながら、歯磨きをしていただき、出来ない方は介助している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄を出来るよう、一人一人の排泄のリズムに合わせた声掛けや誘導をしている。できない方、わからない方は介助し、夜間はリハビリパンツの方、ポータブルトイレも使用されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、水分を多めに摂って頂いたり、適度な運動を心掛けたり、服薬等で排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間、曜日は決定しているが、リラックスできるような雰囲気作りに努めている。一人一人ゆっくりと入浴してもらえようような会話をし、音楽を聞いたり、歌を歌ったりして工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを崩さないよう個々のスタイルに合わせて日中に臥床時間を取り入れたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助では、介護職員によるダブルチェックを行い、服薬変更がある場合には必ず申し送りにて情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあつた嗜好品、趣味、今までの生活スタイルを保ち、喜びや感動もしていただけるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望する馴染みの場所へは、家族様協力のもと外出されている。また、天気の良い日は近所へ散歩に出かけて地域の方々とも会話をし、顔なじみの関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理については支援は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、携帯電話をお預かりし、ご親族や知人等からの電話には、ご希望があれば取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者様と介護職員による季節に応じた作品を掲示している。季節の折々にはイベントを催している。リビングにおいては、ゆったりと過ごせるような配置に努め、床暖房、エアコンにて温度調整をし、快適な温度で過ごすことができるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの個性に合わせて椅子を移動したり、ソファにかけていただいたり、その時々のお気分に沿った居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、馴染みのある家具、小物、写真など家族で相談され配置されていて、落ち着き、安心できるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分かりやすいよう、見やすい字で表札しトイレの場所も表示されている。手すりも設置しており、安全かつ自立活動が出来るよう工夫している。		